

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉に貢献できるよう常に行政・居宅との連携を密にとっている。独自の理念に基づき標語をたて一年間の目標に掲げ介護に取り組んでいる	法人の理念「お年寄りを敬う」とともに今年から「怪我の無い 毎日で 穏やかな日々」というホームの1年間の目標を立てリビングに掲げ、毎月15日の職員会議、また、毎日の朝礼時に取り組みを振り返り、実践に結びつけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加している。理髪は施設の職員が免許を持っているので散髪などしているが 希望があれば地域的美容院まで連れて行っている	区に自治会費を納め地域の一員となっており、地区の清掃活動にも参加している。小・中学生との交流がありホーム畑の草取りを始めとした様々な地域のボランティアの来訪もあり日常的に交流している。10月24日の村民祭には全員で参加し楽しんだという。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通し、地域交流室の提供を呼びかけたり、AED設置している事も折につけ情報提供している。7月には地域の方にも連絡して救急救命の講習会を開催している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の運営推進会議が義務付けられているので第一回目の会議を4月に行いその後は2か月に1回実施している 会議で出された意見や行事内容を参考にQOLの向上を目指しケアに当たっている。	家族、区長、組長、民生児童委員、村福祉課職員、管理者が参加し2ヶ月に1回開き、ホームからは利用者状況・利用者活動状況・スタッフの報告と今後の予定を伝え、意見を頂いたり、権利擁護の説明などをし地域の避難訓練にもお誘いを頂いた。ボランティアと駐在所の方が加わり意見を頂くこともある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所申し込みが思わしくない状態であり、折につけて入所状況等を報告している。	本社のある飯山市地域福祉連絡会に毎月参加し、医療・介護の連携等について意見交換している。参加後の資料等は職員に回覧し情報の共有を図り周知している。村からの依頼の下、利用者の認定調査を管理者が行っており、利用者の状態が把握出来ていていることから利用者の実情に合わせた認定調査を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間一人対応なので玄関施錠は夜間帯のみで日中は解放している。常時所在確認、目配りを行い拘束しないケアに心掛けている。研修に参加するなど、スタッフのスキルアップに心掛けている	年6回行われている法人全体の研修の中で拘束についても計画に組み込み職員に周知している。離脱気味の方には外気に触れるなどにより、見守りを行いながら対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にお参加し、その資料や内容を報告する場を設けると共に回覧で周知し、全職員で情報を共有できるようにしている。			

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	8月の運営推進会議で権利擁護部会の寸劇を見て職員一同認識を高めることが出来た。また現在も成年後見制度を利用する方々がいらっしゃいます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書や重要事項説明書の内容を説明し、納得 理解して頂き契約している。入所後でもいつでも疑問や意見などに応える事を併せて説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や第三者からの意見や苦情を幅広く聞く為に家族が来訪した時には、職員は時間を取って話しかける様にして相手が相談しやすい雰囲気作りに心懸けている また運営推進会議には全家族に参加を促している。	殆どの利用者は希望・要望を伝えることが出来る。家族には面会時に日頃の様子を伝え、希望を聞きケアに活かしている。ホーム便りを2ヶ月に1回作成し暮らしぶりを知らせ、家族との意思疎通を図っている。年1回家族会を開き意見交換も行い、ホームの運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に2回の全体会議を開催し、経営者と話し合いの場を設けている。ホーム内では月に1回の職員会議で意見交換し経営者に報告書を提出している 時には経営者も出席し意見交換している	毎朝の申し送り時に意見を聞いている。職員会議でも意見や提案を聞き運営に活かしている。法人全体の新年会や忘年会を開き職員同士の親睦を深めており、法人内で異動があってもスムーズに引き継ぎができ、利用者のケアに支障がないようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務作成時には月3回までの希望休を聞き入れて作成。資格取得の為の休暇や資格手当も整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を初め、ホーム内でのミーティングや全体の社内勉強会等開き個人及び全体のスキルアップが図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加盟し、研修会への参加や情報交換が出来る様にしている。11月にはホームの当番で研修会を開催する予定		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にも家族や本人にお聴きする等行っているが 入所後も、その都度不満や要望をお聴きし不安の軽減が出来る様にじっくりと時間を取って話を聞いていて上げれるように一人一人心懸けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時を初めいつでも声を聞ける様な雰囲気作りに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も含め、家族本人と話し合いを行い、その時のニーズに即したサービス提供が出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものたたみや縫い物 調理の下準備等出来る範囲でスタッフと一緒に、感謝の意を伝えながら、次につながるような支援を行い、IADLの向上に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に一回施設内の新聞を作成し家族に配布している 行事では一緒に楽しんで頂ける様に案内の通知を出したり 外出・外泊は自由に行っていただき、家族との大切な時間を過ごして頂ける様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の学生時代の訪問を受けたりする利用者もいる。施設から電話を掛けたいと言う方もいるが実際会話が成り立たないので職員が手伝いハガキを書いたりして馴染みの関係が途切れない様に支援している。	昔からの友人の来訪を利用者も楽しみにしている。孫やひ孫の面会の際は、利用者全員を和ませてくれるひと時となっている。家族と外食に出掛けたり、年末には家族に年賀状を出す予定もあり、馴染みの関係が継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えによって気の合う人同士集まり昔の話などに花が咲いている。またお互いに声を掛け合ったり、励まし合ったりしている姿が見られ、利用者間でのつながりも感じられる様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても定期的に施設に訪問される方がいる。出合いを大切にし、何時までも繋がりのある関係を続けていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から呟きなど書き留めたり担当と計画作成担当者が定期的に聞き取りを行い、現在の満足度や希望・意向の把握に努め、毎月行う職員会議の中で話し合いを行いプランに反映させている。	殆どの利用者は思いや意向を伝えることが出来る。日ごろ接している中でのつぶやきを大切に記録し、職員間で情報を共有しケアに活かしている。食べたいものがある時には食事代の中で購入しおやつとして提供するなど、本人本位に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居宅ケアマネから頂いた情報をベースに日常会話の中で知りえた情報、面会時に知りえた情報などを書き加えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で会話する機会を多く持ち、発見した出来る事、出来なくなったこと等を記録してスタッフ間で情報を共有することで、統一した支援が継続できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族から面会時に、気になる事などの聞き取りを行い、担当とケアマネがそれぞれの時期をづらして本人からの聞き取りで意向を見極めながら、施設内カンファレンスを行い計画を立てている。	本人・家族から希望を聞きケアプランに活かしている。日々の記録が「出来ている」「出来ていない」の「○」「×」式で簡単に記入出来るよう工夫された「ケアプラン実施表」や「ケアプラン評価チャート」を基にして6ヶ月ごとに見直しを行っている。状態に変化が生じた時にはその都度見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個々人の記録に記入し、一日を通しての状態を把握できるようにし、モニタリングやプランの見直しに活用できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の時の通院介助、入院時の手続き訪問看護や訪問歯科依頼などその時々ニーズに対応している。		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣中学の体験学習等の受け入れを希望しながら、少しずつ地域との交流を進めている。AEDを設置しており、スタッフは年2回講習を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時の聞き取りで、本人・家族の希望を聞き、入所前からのかかりつけ医で有る医師に、入所後も掛かれるように支援、時には職員が通院介助しながら医療機関と連携し、継続して適当な治療が受けられるよう努めている。	利用契約時に協力医があることを説明し希望を聞いた上で、それに沿えるよう支援している。協力医による往診は月2回、訪問看護師は月3回の来訪がある。訪問看護は24時間オンコール可能であり適切な医療連携がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回の訪問看護と月に4回の訪看(24時間オンコール可能)医師も24時間オンコール、必要に応じて連絡調整は整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は状況経過を報告。入院中も定期的に面会し病棟看護師から状況を聞いたり、家族に状況を確認している。そうした場合に備え、通院時にはスタッフが付添、病院関係者との関係づくりに心懸けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りも状況の変化に合わせて家族の意向を再確認しながら 家族・医師等と話し合って決めている	法人の看取りの指針が作成されており、利用契約時に説明し希望を聞き同意書を頂いているが、状態の変化により気持ちも変わることを踏まえ、その都度、家族を始めとし医師・看護師・職員などと話し合いをしている。希望に沿えるよう出来る限りの支援をし、ホームでの看取りの経験もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し活用・研修も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上避難訓練を行っている。春には施設のみ 秋は地域の避難訓練と一緒に交じって避難訓練を行っている。	9月1日、地区の防災訓練に参加した。地区の避難所はホーム近くにあり、年2回総合訓練も行っている。ホームとして毎月消防署への通報訓練をしていたが、消防署より6月の訓練の際「もうやなくていいです」と言われ9月の総合訓練まで中止にしたぐらい熱心の実施しており、職員間で災害についての対応方法が周知徹底されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄は一人一人のプライバシーを尊重し十分な配慮しながら行い 話し方は言葉使いや声のトーンにも注意している。	名前の呼びかけ方など、利用者一人ひとりの希望に沿った言葉かけに心掛けている。プライバシー保護マニュアルを基に法人で研修を行い、周知している。排泄や入浴介助については同性介助か異性介助のいずれかを利用者の意思を尊重しそれに合わせるように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や作業散歩も希望や訴え等の有る時には一緒に出掛けたり、余暇活動やおやつや飲み物も数種類準備してお好みのものを選択して頂いている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別介護に心懸け、各々のペースで生活して頂ける様に食事にしても時間に余裕を持たせてゆっくり召し上がって頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選んでいただける方には その日に着たいものを選んでいただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や行事食を取り入れながら、野菜の下準備等していただいている。 好き嫌いの有る方には別メニューを提供して食べる事の楽しみを感じて頂いている。	法人としては特に食事に力を入れており給食委員による給食会議で検討されたメニュー表が本社から送られてくる。それを参考にしながら利用者の食事形態やホームで収穫した野菜などによりアレンジしている。外出行事の際には外食も楽しまれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限の有る方に関しては、医師の指示を受けながら制限の範囲で提供。摂取量が必要な方には摂取量を記入して時間関係なく 摂取出来る様に支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後共同の洗面所にて、各々能力に応じて自力または一部介助で航空ケアを行っている。その際自力の方でも最後は職員が確認してみがけていない時にはお手伝いしている。			

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用して、排泄パターンの把握に努めている。事前誘導や声掛けを行う事で、オムツ外しから トイレでの排泄と段階を経て自立に向けた取り組みを行っている。	排泄チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握しており、様子から察知したり時間を見計らって声掛けするなど、さりげなく声掛け誘導しトイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表により、各々排便を確認している。便秘予防として おやつは乳製品、食事には繊維の多い物を提供している。散歩やマッサージ等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応入浴日は決めているが 体調や気分で入浴を拒否される方には、工夫をしたり気分の良い時には入浴・又は清拭など行っている。基本的には週に少なくとも2回の入浴を行っている。	基本的に週2回入浴出来るよう計画している。一人ひとりゆっくりお風呂を楽しめるよう見守りをしている。また、状態により職員二人で介助することもある。菖蒲湯・ゆず湯など季節感を味わっていただけるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	動きが多い方には、職員の目の届く居室に変更したり、一人では寂しいと言う方には、ホールの畳の上で何時でも、職員が見える所で寝て頂いている日中でも休息を希望される方には ゆっくり休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出される薬についての説明書をスタッフがいつでも確認できるようにファイルしている。又変更時は連絡ノートに記入して全員に周知されるまで朝礼で伝えている。適切な服薬支援が出来る様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事が好きだった方には 鉢に植えた物に毎日責任を持って水くれをして頂いたり音楽が好きな方には カラオケで歌っていただいたり、縫い物のできる方、調理の下準備等楽しみや生甲斐は継続して、張りのある生活を送って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々に自然に触れる様に外出介助をしている。催し物やお祭り等、回覧板で知った情報はお天気が良ければ出掛けしている。最近ではハーフマラソンを家族の了解を経て見学した。	ホームのパンフレットには年間行事計画が掲げられており、外出も組み込まれている。2ヶ月に1回開かれている運営推進会議でも地域のお祭りや外食も兼ねたドライブで頻繁に外出していることが報告されている。ベランダで日光浴を楽しんでいることを利用者から伺った。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向も加味しながら、現金が無いと不安な方、管理が可能な方には所持して頂き、希望があれば買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所にある電話やホールの電話を使っていつでも家族に電話出来る様になっている。また言葉が上手く出ない方には、職員の支援で葉書や手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のホールからは、地元の人ならば誰でも知っている たかやしろがど〜ん見える。山々は四季折々に様々な物語を語ってくれている。利用者職員の合作の品々がホールの掲示板を毎月賑わせてくれている、ほっとする空間に利用者の目が釘点けになっている事もある。	食堂兼リビングは広く陽当たりも良く、リビングからテラスに出て何時でも気分転換が出来、利用者も日光浴などを楽しみにしている。リビングのテレビ前の量の小上がりにはキャスターが付けられており催しの際は自由に移動させることが出来る。リビングには利用者の日頃の様子がうかがえる写真も飾られており、和やかに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のホールでは 山や田んぼ 畑を見ることが出来ている、好きな場所で好きな物を見ながら ゆったりと生活されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	子供の写真や孫 姉妹等の家族の写真を飾ったり 長い事一緒に生活してきた 大切なぬいぐるみ等居室に置かれている。ぬいぐるみに話しかけている言葉は優しく ほ！！とする瞬間である。	居室にはベッドやクローゼットが備え付けられており、それぞれキャスター付きとなっているので一人ひとりの状態に合わせ配置を変えることができる。自宅で利用していた馴染みの物も持ち込まれ、居心地よく過ごせるように居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには平行棒を設置 自由に歩行訓練が出来様になっている。またトイレなど分からない人には 大きく書いて貼っている。ホールの日めくりカレンダーは 毎日確認しておられる方もいる。		